



吉子川



令和7年1月27日(月)
 学校だより NO. 64
 中島村立吉子川小学校
 発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
 のあやめの花に
 住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの
 十か条 (1月)
 力を合わせてみんなで前進
 仲間がいるから頑張れる

◇ 今週のめあて ～挨拶の花を満開にしよう～ ◇

今週のめあては「明るい挨拶を心がけ、気持ちよく生活しよう」です。その目標を達成させるため、計画委員会の子どもたちは週のめあてを工夫してくれています。今週はいよいよ最終週です。「挨拶の花を満開に」とは、よく考えたものだと感心しています。

今朝、計画委員会の子から全校生に呼びかけがありました。紹介します。

全校生の皆さん、おはようございます。計画委員会よりお知らせをします。

まずは先週のめあて「あいさつの花をさかせよう」の反省をします。4つのめあての全校集計を発表します。

相手の目を見ての「あ」のシールは、全校で22個でした。いつでもだれにでもの「い」は20個

先生やお客さんより先への「さ」は19個

続けて何度でもの「つ」は21個でした。

先週の吉子川小学校は、先生やお客さんより先への「さ」が弱かったので、今週は「さ」をがんばりましょう。それから3年生では少し厳しめに採点して、先生やお客さんだけではなく友達どうしても、いえるようにしてシールをはっているそうです。すごいなあと思いました。

今週もあいさつの花がさく、よしコッピいっぱい吉子川小学校になるよう、全校生が一丸となって、取り組みましょう。

これで計画委員会からのお知らせを終わります。



◇ 下学年(1～3年生)の心の成長 ～けんかの解決を自分たちの話し合いで～ ◇

小学校下学年は、まだまだ精神面の発達が未熟で「自己中心性」をもつ発達段階にあります。「自己中心性」というのは、自分視点でしか物事が見られないという性質で、例えば、自分が思っていることは相手も同じように思っていると考えというようなことです。そのため、お互いの気持ちがずれていることに気がつきにくく、けんかに発展しやすいのです。また、感情をコントロールする大脳の前頭葉の発達が未熟で、ちょっとしたことで怒りが爆発しやすいということもあります。「けんか」と聞くと、大人はハラハラしてしまうものですが、基本的に子どもはいらだちや怒りをがまんするのが難しく、けんかをしやすいものなのです。特に下学年では多いです。本校の子どもたちもそうです。

担任の先生や近くにいる大人が間に入り、互いの言い分を聞き取ることで問題を解決することが多かった吉子川小学校でしたが、ふと気付くと、けんかをした者同士、または近くにいる友達を含め、冷静に話し合い、自分たちで解決策を考える場面が多くみられるようになりました。そして、そのことを担任の先生に報告しています。大きな成長だと思えます。心のすれ違いをうやむやにせず、しっかり自分たちで話し合うことは人間関係をよりよくしますね。上学年になると、相手に遠慮したり諦めたりしてしまいがちですが、真の友情は、問題を解決するプロセスで築かれますから、自分の心も相手の心を尊重し合い、コミュニケーションを大切に生活してほしいと願っています。